

## 新宮山彦ぐるーぷ第2215回

### 行仙宿迎春準備作業

◇実施日 12月25日(日)

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、湯川一郎、濱野兼吉、生熊敏男・

千満子、大江加子予、畑林清子、西克、梶野照雄、志

岐敬 11名

いよいよ今年最後の行事となった。  
今冬から国道425号の冬季通行止めが浦向の墓地前からになり、  
村役場で鍵を借りることが必要となり、朝9時に役場駐車場に集合  
する。



通行止めゲート

荷物を満載で

登山口水場

梶野車は伯母峰トンネル付近の積雪のため10分ほど遅れて到着

した。沖崎、大江、湯川、梶野の4台で登山口に向かう。俱利伽羅  
谷の橋を過ぎたあたりから路面に雪が残っていて、慎重に車を進め  
る。4台とも無事に登山口に到着、ここ迄の道に積雪は思ったより  
少なかった。

今日は例年の迎春用品に加えて、大江さん寄贈の小便器、火消壺  
と7リッターの水を入れたポリタンク3個、2リッターのペットボ  
トル3本もあってかなりの荷となった。  
モノレールの終点から各自手分けして、一回で小屋迄運ぶことが出  
来た。



ポリタンクで水を運ぶ

雨水槽の水

行仙宿に到着後、休むことなく作業を始める。女性陣はお堂の清掃  
とお正月の御供を、児嶋さんはストーブに火を入れた後割れた小便  
器の交換、生熊(敏)、西、湯川、志岐の4人で3つある雨水槽の  
氷割、梶野、濱野の2名は水場の整備としめ縄交換に向かった。  
昨日まで強かった風も弱くなったが、気温は0℃くらいで、屋外で

の作業は指先が凍えて、交代しながら氷割を続ける。玄関横とトイレ横の雨水槽は底まで完全に凍っていて、全てを割って取り除くことが出来なかった。中央部の氷を取り除いて横に倒し溶けるのを待つことにした。



割れた小便器交換

行仙宿の水場

梶野君が灯油を持ってきて、水場に降りる前に石油ストーブに火を点けてくれた。ストーブの前に手をかざすと暖かさが伝わってくる。水場班が戻るのを待たずに昼食を始める。20分ほどして水場班が戻ってきた。水場は少ないながら流れがあるようだ。積雪があるので、当面この状態が続きそうだ。

今日25日はクリスマス、コジマカフェにはイチゴのケーキやギンナンまで出て食後のひと時を楽しく過ごした。いつもの気遣い感謝。湯川君はお母さんの介護のため昼食後下山した。ご苦労様でした。

午後は小屋内と管理棟の整理・清掃、発電機が動いたので掃除機

も使った。午後2時前に作業を終え、お堂に全員集まって勤行後に下山した。



ギンナンを焼く



掃除機も使う



本日の参加者



小屋の正月飾り



笠捨山



下山途中で

今年も色々あった多忙な一年だった。天候(雨)に振り回された

感が強い。ゴールデンウィークも2日くらいが雨、秋の3連休もことごとく雨。予定していた山彦の行事も雨で中止や延期が多かった。コロナの再拡大もあり小屋の予約キャンセルが相次ぎ、来宿者、登山者は少数だったと思われる。

日本山岳会の「秩父宮記念山岳賞」受賞や奈良県の「あしたのなら表彰」などの慶事もあったが、長年の仲間で、80歳を越えてもハーフマラソンに出場していた豊嶋寛さんが12月20日に87歳で亡くなられた。もうカレンダーも頂けなくなった。

主要メンバーの内5名が来年80歳を迎える。加齢は待つことを知らない。これからは「無理するな、安全第一」を更に徹底していく必要がある。皆さん良いお年を。  
(記：沖崎)

#### 行動タイム

補給路山口 09:40→10:50 行仙宿→11:15 水場→12:15 行仙宿  
14:03→14:40 補給路登山口